

2024年度

事業計画書

TAKEDA HOSPITAL GROOP

老人保健施設 白寿

高齢サポート・醍醐南部

基本理念 真心を込め、そして信頼を

【基本方針】

1. 利用者様の人権を尊重し、個々に適ったチーム介護を提供する
2. 質の高い、満足される介護を提供し、在宅復帰を積極的に支援する
3. 職務の研鑽を深め、知識や技術の向上を図る
4. 職員の施設運営参画意識を高め、健全な施設運営を図る
5. 武田グループ間、他事業所および地域との連携の強化を図る

【QMS 品質目標】



【白寿 中長期目標】 2021(令和3)年度～2025(令和7)年度

- (1)BCP にもとづいた事業継続と ICT 活用による活発なコミュニケーションを図る
- (2)誰にでも自信を持って紹介できる質の高いサービスと“ほっ”とする施設運営を目指す
- (3)職員一人ひとりが5年後の白寿での役割や成りたい自分が語れる組織を目指す

※京都市醍醐・南部地域包括支援センター、京都市下京区地域介護予防推進センター含む

☆この一年間忘れずに取り組んで欲しいこと

2024 年度共通目標

- 1) 利用者の自立支援、自己決定及び意思決定支援に向けた努力を重ねること
- 2) 職員一人ひとりが組織の一員であることを忘れず、我が事として笑顔で行動しよう
- 3) 職員一人ひとりが倫理観を持って利用者の尊厳と目標実現のため行動しよう
- 4) 利用者・職員相互の楽しいと感じる時間が共有できるケアを実践しよう
- 5) 地域の役割モデルとなれるようチームで在宅療養支援機能の充実を図ろう
- 6) 利用者家族や関係機関、地域住民に白寿を広く知っていただく取り組みを実践しよう

【入所・短期入所】

□ 中長期目標

1. BCPにもとずいた事業計画継続を理解する為、入所全職員で研修する。
2. 笑顔を忘れず、一人一人に丁寧なケアを行い、心地よく過ごせる施設にする。
3. 在宅復帰を目指し他職種でのチームケアに加え、家族とも連携を図ることで安心して在宅復帰が出来るようにサポートする。利用者個々の課題に沿ったプランニングをする。

□ 重点課題

1. 利用者の目標実現の為、自己決定及び意思決定支援に向けた努力を重ね、職員一人一人が我が事として笑顔で行動をする。
担当利用者の状態や取り巻く状況に関する情報を収集・分析し、利用者が求めていることや解決すべき課題を明確にする。
課題をケアプラン援助内容に入れ、日々のケアにあたる。
利用者や家族からの苦情なく、心地よく過ごしていただく。

□ 今年目標

1. 利用者や家族、職員に笑顔で挨拶をしっかりとする。
2. 利用者には過ごし易く、職員には働き易い環境になる為の改善提案を出す。

【通所リハビリ】

□ 中長期目標

1. 地域から選ばれる地域包括ケアシステムのコアとなる老人保健施設として、利用者の自立・在宅復帰の支援、在宅生活の継続支援を目指す。
2. 質の高いサービスの提供するため、職員一人ひとりが笑顔で思いやりのある対応ができる施設運営を目指す。
3. 職員間のコミュニケーションが良好で働きやすい職場環境の下、職員一人ひとりがいきいきとやりがいを持って働ける組織を目指す。
4. 感染症や自然災害発生に伴うBCP(事業継続計画)に基づいた訓練を行い、平時から備えることで非常時にも事業が継続または早期に再開できるよう職員の実践教育を行う。

□ 重点課題

1. 登録利用者数を平均的に確保し、安定させることで稼働率の向上を目指す。
2. 利用者のQOL向上のため要望や意見を収集し、利用者・職員が共に考え改善を図る機会を持つ。また、多職種が協働し社会参加活動やIADLの向上を意識した個別ケアを実践する。
3. カンファレンス、意見交換の場を多く持ち、職員一人ひとりが日々の業務の振り返りを行うことで、業務改善や働きやすい職場環境作りを自分事として捉え、やりがいをもって取り組める組織作り。
4. 感染症や大規模災害発生に備え、『平時』・『予想される場合』・『発生時』に対する訓練・研修を行い、定期的な評価と見直しを行うことで非常時に対応可能な組織作り。

□ 今年目標

- ・利用者のニーズを読み取り、柔軟な対応をすることで稼働の向上・安定を図る。
- ・利用者と共に考え、希望が実現出来る環境と継続的な改善を図ることで魅力ある事業所を作る。

・内部研修により、継続的な学習・事故予防対策を講じる機会を持つ。

職種別目標

看護

□ 方針

・利用者の体調管理を行い適切なアセスメントをするとともに、質の良い医療・看護が提供できるように連携を図る

□ 重点課題

1. 利用者の異常や不調が見られる場合の早期発見と適切なアセスメントを行い、医師に報告し適切な治療が受けられるようにサポートすることができる
学習の機会を活用しアセスメント能力をあげる。
2. 感染対策の緊急時の対応と事前の教育と指導を行うことができる
感染対策(手洗い・ガウン着脱)の指導を年2回行う。
3. 働き続けられる職場づくりを目指す
有給取得率のアップと連休の取得ができる。
他職種との連携を図る

□ 今年目標

1. eラーニングを活用し看護師の教育を行う。
2. 利用者の体調を管理し、必要な治療が提供できるように職種間での情報共有を行う。

介護

□ 方針

利用者への思いやりをもって対応する。

□ 重点課題

1. アンケートや家族との交流から利用者や家族に満足していただけるケアにつなげる。
日常の活動を充実させ、利用者が楽しさを感じながら生活リハビリを行える環境を作る。
長期入所: 家族へ適宜、日常の様子をお伝えし、利用者・家族に安心して利用していただく。
短期入所: ショート退所サマリー・家族への手紙を用い施設での日常を伝え、利用者にとって充実した施設生活を過ごされている事理解していただき安定した運営に努める。
通所リハビリ: 在宅生活に沿ったケアを実践し安全・安心な利用の提供。

□ 今年目標

入所

1. 利用者の目標実現の為、訪問や面談で利用者や家族とのコミュニケーションを図り、情報共有につとめ、老健として出来るケアを行う。
2. 利用者、職員相互に日常での活動や行事などを実施し、日々の生活リハビリが楽しいと感じる時間を共有出来るケアを行う。

利用者や家族とのコミュニケーションを多く持ち、情報収集・共有を図りサービスの充実に努める。

日々の活動・生活リハビリを充実させる。

カンファレンスやケアなど、日々の出来事を記録、申し送りをする事で全職員で共有したケアに努める。

通所

1. 利用者・家族のニーズに沿ったケアを行い在宅支援を継続していけるよう支援を行う。
2. 利用者・家族とのコミュニケーションを大切に状態観察等の情報共有を全職員と介護支援専門員も含めたチームとして図っていきます。
3. 利用者の身体状態に合わせたケアから、自宅での生活に必要な動作の維持・向上を図っていきます。

介護支援専門員

□方針

ご利用者を尊重し、ご利用者・ご家族の相互支援の視点から必要とされるケアマネジメントを実践する。他職種との連携を重視し情報の共有に努め、ご利用者をご家族が安心して在宅で生活が送れるように、居宅ケアマネ等との連携を密に行い、在宅復帰に向けた取り組みができるように努める

□重点課題

1. 在宅復帰・在宅支援を図っていく。疾患別ケア、生活リハビリの視点を盛り込み、個別性に応じた具体的なサービス内容を盛り込み他職種で実践する。その結果を根拠(記録等)をもって評価できる。
2. 本人、家族、居宅ケアマネジャーからの情報の聞き取りを強化し、他職員と共有する。ケアマネジメントの様子を、SNSを利用して外部へ発信しアピールする。

□ 今年目標

- ・超強化型の維持
- ・個別ケアの強化(アセスメント・プランニングの強化)

栄養

□ 方針

「いつまでも美味しく口から食べられる」を目指し、

入所時の情報収集、摂食嚥下機能の評価、摂食状況の確認、低栄養リスクの改善に多職種協働で取り組み、一人ひとりの状態に合わせた栄養管理・食事提供を行う

□ 重点課題 □ 重点課題

1. ケアマネジメントの質の向上

利用者個々に合わせたケアを目指し、入所時のスクリーニング、入所後のアセスメント、モニタリングにおいて、多職種で情報共有・検討を行う

2. 在宅復帰支援

在宅で調理しやすい食事内容を考慮し、利用者個々の摂食嚥下機能に合わせた食事を提供
経時的な変化に合わせて評価と調整を行う。退所時自宅や施設に向けてよりわかりやすい情報提供を行う。

3. 安全で美味しい食事提供

職員の健康管理・衛生管理を行い、安全な食事を提供する
利用者のニーズを的確に把握することで、満足度向上に努める

食事の楽しみも感じてもらえるメニュー、おやつの開発を行い提供する。

□ 今年目標

1. 多職種での栄養ケアマネジメント(リハビリ、口腔ケア、摂食嚥下スクリーニングなども含め)の実施
2. 入所、通所での特別メニュー、手作りおやつの提供の実施

リハビリ

□ 方針

利用者一人ひとりの出来る活動に着目した個別性の高いケアの一助として、多職種協働したリハビリテーションを提供できる施設を目指し、組織の一員として成長に貢献できるように努める。

□ 重点課題

1. 連続性のあるリハビリテーションの提供のための人材確保、人材育成

リハスタッフ間の情報共有、勉強会や部会への参加を含む教育、個別面談の実施を行い、人材育成と定着を図っていく。また、SNS等を活用して白寿のリハ科を外部にアピールしていく。

2. 客観的評価の元多職種との連携を図り、生活リハに繋げる。

評価バッテリーや機器等を用いた客観的な評価を活用しつつ、生活リハの提案を行い、実践に繋がられるようにしていく。また、個別性のある計画の策定を行っていく。フロアと協働して行う活動の機会を作る。

□ 今年目標

1. 安定した体制を整える。
2. リハスタッフ間、他職種との連携を図り、ご利用者の自立支援に繋げる。

支援相談員

□ 方針

他職種との連携を重視し情報の共有化に努め、ご利用者とご家族が安心して在宅で生活が送れるように、入所中より積極的に相談援助業務を展開し、居宅ケアマネとの連携を密に行い、在宅復帰に向けた取り組みができるように努める

□ 重点課題

1.他職種との調整役として、施設内の他職種と報告・連絡・相談を密に行うと共に、家族・関係機関と連携し、在宅復帰に向けた計画的な支援、提案を実施する。また、事前の説明を丁寧に行い、多職種と連携強化を図り、苦情発生件数0件を目指す。

2.他部署、他職種と話し合いを重ね、相談員業務の見直し、整理(送迎業務など)を行い、相談員兼務体制を検討し、次世代の育成に取り組む。

□ 今年目標

- ・利用者、家族から選ばれる施設を目指し、安定した施設運営ができる
- ・相談員次世代の人材育成

事務

□ 中長期目標

地域と病院と施設をつなぐ連携の要としての自覚・目的意識を持って組織運営に携わる

□ 重点課題

1. 受付・電話対応の強化を図る為、毎月の事務所会議にて「困りごと、気になる事例」を定例議題としてあげ、振り返り・見直し機会を持つ。ディスカッションを行った上で改善内容を検討する
2. 施設運営がスムーズに回るよう、事務業務を見直し、マニュアル化を図り、引継ぎ体制を強化する

□ 今年目標

1. 受付・電話対応時におもいやりの心を持って対応し接遇マナーの向上を図るとともに、正確な情報収集及び伝達に努める
2. 業務個々の目的を明確にし、進捗確認と組織全体としての生産性・効率性向上を常に意識した結果や成果が見える体制を作る

【居宅介護支援】

□ 中長期目標

1. 医療・介護のかけはしとして、利用者が在宅で安心して過ごせる、地域に根ざした事業所となることを目指す。
2. 主任介護支援専門員・介護支援専門員の専門性を発揮し、地域の中核となる事業所を目指す。

□ 方針

老人保健施設や地域包括支援センターを併設した居宅介護支援事業所として、地域の中で在宅支援の中心となれるよう、ケアマネジメントのスキルアップや信頼関係の構築、関係事業所や地域との連携強化を行い、選ばれる事業所となる。また、医仁会武田総合病院と連携を図り、スムーズな在宅復帰・支援を行う。

□ 重点課題

1. 働き方改革を意識した業務の効率化の実施
2. 事例検討会やスーパービジョンの実施により、ケアマネジメントの質の向上を目指す
3. 医療機関、地域との関りを増やし、連携強化を図る
4. 災害、感染症に関する、予防や業務継続(BCP)についての取り組みの実施

□ 今年目標

ICT 活用により作業効率化を図り、業務負担が増えないようにする。

【高齢サポート・醍醐南部】

- 中・長期目標(2021～2023 年度までの第 8 期京都市民長寿すこやかプランに基づく3 年)

- 1.健康寿命の延伸に向けた健康づくり・介護予防の推進
- 2.地域で支え合う地域共生のまちづくりの推進
- 3.住み慣れた地域で暮らし続けるための住まい環境の確保と支援の充実

□ 方針

コロナ禍の中でより重要性の増す地域のつながりを守るため、孤立防止の見守り活動や居場所の構築を工夫して関係機関とともに進めていく。また、多重課題のある対象者について早期にアプローチできるよう多職種連携を強め、相談機能を強化する。地域住民や団体、地域包括支援センター等関係機関との支援体制の強化を図り地域共生社会の実現に取り組んでいく。

□ 重点課題

- 1.社会の変化に対応した健康長寿と地域包括ケアの推進
- 2.高齢者が健康でいきいきと活躍できる環境づくり
- 3.認知症の方をはじめとした支援を必要とする高齢者等が自分らしく暮らすための支援の充実
- 4.医療・介護・生活支援サービス等の充実
- 5.職員の定着と育成

□ 年間行事計画等

- 1.日常生活圏域、地域福祉組織中心、個別と3段階の地域ケア会議の実施
- 2.介護予防事業の展開
 - zoomによる介護予防教室の継続
 - 公園体操の継続
 - ウォーキングイベント他、参集型による予防事業の開催
- 3.醍醐認知症あんしん見守り隊活動の継続
 - 啓発班…サポーター養成講座の開催
 - ネットワーク班…ネットワークの見直し
 - 認知症カフェの再開
- 4.医療。福祉。介護に関する、既存ネットワークの充実と新たなネットワークの構築
 - いきいき応援ひろば、地域ケアマネ交流会の再開と継続
- 5.災害対策、見守り活動の支援
 - 地域支事業 BCP の作成と避難行動要支援者名簿の活用